

design

LESSON.3

書体選びの基本

#selfmedia

代表的な書体の種類

日本語の文字は、「明朝体」と「ゴシック体」に大別することができます。明朝体は、横線に対して縦線が太く、横線の右端、曲り角の右肩に三角形の山（ウロコ）がある書体です。一方、ゴシック体は、横線と縦線の太さがほぼ同じで、ウロコが（ほとんど）ない書体です。「明朝体」は女性的、繊細、洗練された、威厳があるなどの印象を与え、「ゴシック体」は男性的、力強い、しっかりとした、存在感がある、などの印象を持っています。

明朝体

HG平成明朝
ヒラギノ平成明朝

字
字

ゴシック

HGゴシック
ヒラギノ角ゴシック

字
字

FONT

欧文の文字（欧文フォント）も、日本語フォントと同様、2つに分けることができます。一つは、「セリフ」書体と呼ばれ、縦線が太く、ウロコのある書体で、言わば明朝体の欧文版と考えて良いです。もう一つは「サンセリフ」書体と呼ばれ、線の太さが一様でウロコのない書体で、こちらは欧文版ゴシック体と考えていいでしょう。サンセリフの代表は、Arial や Helvetica です。ちなみに、「サン」とは「ない」、「セリフ」とは「ウロコ」という意味です。

セリフ体

Times

Centaur

F
F

サンセリフ体

Helvetica

Arial

F
F

FONT

文字の読みやすさを生み出す「3つの要因」

文字には「言葉を（正確に）伝達する事。」という役割があります。この役割を果たすために「文字」をどう扱えば「読みやすく伝えられるようになるか？」をキチンと知っておく事が大切です。そこで、「読みやすさ」を生み出すために、以下の3つを意識して文字を扱う必要があります。

① 視認性

文字

or



ひと目で文字と認識できるか？

② 可読性

文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？

or

文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？

文字(文章)は読みやすいか？

③ 判読性

数字？アルファベット？

O or I

読み間違いや見間違いを
起こしにくいのか？

本文は、ゴシックか明朝体のどちらがイイ？

本や雑誌など、媒体によってどちらが読みやすいかなどは変わってきますが、WEBサイトの本文（テキスト部分）はどのサイトを見ても、基本的に「ゴシック体」で表示されています。（明朝体のサイトはほとんど見かけない程）

明朝体の場合は元々文字の線に抑揚があります。その為線の太さは一定ではありません。線が細い部分が背景色の「白」に負けてしまって見えにくくなっていたり、ゴシック体と比べて文字の大きさが少し小さく見えるので、長文になっていくほど「読みにくさ」が前に出てくる

明朝体

モニターだと
読みにくい

文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？

ゴシック体

モニターでも
読みやすい

文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？

書体を選ぶときの「3つ」の基準

パソコンにはたくさんのフォントが搭載されています。その中には読みやすいフォントもあれば読みにくいフォントもあります。タイトルに向いてるフォントもあれば、長い文章を書くのに向いているフォントもあります。なのでフォントの使い方を間違えると、資料は台無しになってしまう可能性は大です。プレゼンやその他諸々の書類を作るときには、つねに、「視認性」「可読性」「判読性」を高めることを意識して、もっとも効果的な書体を選ぶ必要があります。書体の選び方は挙げればきりがありませんが、ここでは以下の「4つのポイント」に絞って書体を選ぶ基準を紹介します。



基準① 本文かタイトルか？

スライドやポスターならばともかく、レジュメやレポート、企画書、報告書、サイトなどのでも、ときに、数行、数十行に及ぶ長い文章を書くことがあります。このような長い文章には、「細い書体」が向いています。太いフォントで長い文章を書くと紙面が黒々してしまうので、可読性が下がります。なので基本的には本文は細い書体、タイトルや見出しは太い書体と考えてOKです。

The image shows two boxes illustrating font readability. The left box, crossed out with a red 'X', shows a title '見出しタイトル' in a thin font and body text '文字は読みやすいか？' repeated five times in the same thin font. A grey speech bubble above it says '可読性が弱い' (Weak readability). The right box, circled in red, shows the same title '見出しタイトル' in a bold font and the same body text in a thin font. A green speech bubble above it says '可読性が強い' (Strong readability). A green arrow points from the left box to the right box.

見出しタイトル
文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？

可読性が弱い

見出しタイトル
文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？

可読性が強い

基準② 読みやすく、美しい文字か？

基本的には、シンプルでクセのないはっきりしたフォントを使うことが望まれます。手書き風の文字や飾り文字、筆記体は、カッコいい、かわいい、という側面があるものの、読みにくく、読み間違いも多いフォントです。プレゼン資料や資料作成などの場面では、こういったフォントの使用は避けましょう。

(もちろん、これらのフォントを効果的に使うことのできる場面はたくさんありますが、時と場合によってはこのような書体はあまり求められていません。)

視認性が弱い

書体のえらび方

文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？



視認性が強い

書体のえらび方

文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？文字は読みやすいか？

基準③ 太字に対応しているか？

普段よく使うフォントの中には、「太字に対応していない」書体がたくさんあります（たとえば、MS ゴシックや MS 明朝）。このようなフォントをたとえば PowerPoint 上で太字に設定すると、元の文字周りに線を付けて太くするという処理が行なわれます。これはデザインの非常に不格好な上に、実際にそれほど太くならないうえに、字がつぶれてしまい、可読性、視認性、判読性のいずれもが低下してしまいます。太い文字を使いたいときは、はじめから「太字に対応した書体」を選んでおく、あるいは、太くしたい部分だけ「もともと太い書体」を使う必要があります。

太字非対応ゴシック

太字非対応 ▶ ~~太字非対応~~

文字があまり太くならない上に不格好に・・・

太字対応ゴシック

太字対応 ▶ 太字対応

可読性があり文字もつぶれて見えない

文字の太さで変わる印象(ゴシック&明朝体)

文字 文字 文字 文字 文字 文字

シャープ・現代的・洗練された・女性的

元気・力強い・頼りになる・男性的

文字 文字 文字 文字 文字 文字

モダン・中性的・難しい・都会

権威的・男性的・大人・歴史

上記のように、同じフォントでも太さが違うだけで印象はだいぶ変わってきます。このようにフォントやその太さによって受ける印象が違うということを理解しておく、フォントを選びやすくなり、デザインの幅も広がります。

まとめ

各それぞれのWEBサイトや媒体で、誰かに情報や伝えたいことを伝えるためには、それを見た人がいかにスムーズに、ストレスが無く情報入手できるかが重要となってきます。その為には文字の読みやすさを生み出す3つの要因「視認性」「可読性」「判読性」を高めることを意識してもっとも効率的な書体を選ぶことが大切です。また、フォントもそうですが文字の太さによって印象もだいぶ変わってくるので、ターゲットに合った適切なフォント・太さを選びましょう。またWEBサイトでは明朝体ではなくゴシック体を使用しましょう。

